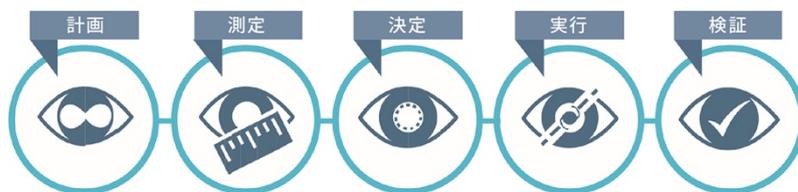


白内障手術の精度を大きく向上させる手術システム導入のお知らせ

当院ではこのたび、Alcon Cataract Refractive Suite™ を導入いたしました。これは手術後の患者様の見え方に対する高いニーズに応えるために開発された複数の機器から構成されるシステムです。本システムを用いることによって、白内障手術の術式選択、眼内レンズの種類や度数の選択、乱視矯正を行うための適切な切開やレンズの固定位置の設定など、医師の技量や経験だけでは対応が不可能なレベルの高い精度で手術を行うことが可能になりました。



ARGOS® with image guidance

眼球測定機能

白内障手術時に眼内に挿入する眼内レンズの度数を決めるため、眼球の角膜頂点から網膜までの各眼構成部位の厚み等の計測を行います。現在この眼内計測には、近赤外光を使ったイメージング技術である OCT（光干渉断層画像診断法）が主流となっていますが、本機器はなかでも最も高感度・高速で計測できる SS-OCT（波長掃引型光干渉断層画像）方式を採用しています。

そのため測定の精度が、従来の機種に比べて飛躍的に向上しています。

本検査の測定誤差はそのまま術後の屈折誤差（予定よりも近視や遠視側になってしまうこと）の原因となります。ARGOS ならそのようなリスクを限りなく低くする事が可能となります。



ガイダンス機能

また本機器には角膜の形を解析し、最適な切開部位や乱視の軸などを顕微鏡内に投影して手術中にガイドするシステムも搭載されています。多焦点眼内レンズなどの



高機能レンズの性能を最大限発揮させるにはより正確な手術が求められます。これまでは、術者の目分量で行っていた手術操作をコンピューターガイドにより行うことで、より正確な手術が可能になりました。正確な計画通りの手術により、多焦点眼内レンズで問題となる眼内レンズの傾きや偏心、乱視矯正トーリックの軸ずれのリスクを軽減させた正確な手術を提供します。

フェムトセカンドレーザー白内障手術装置との連動

当院では、米国アルコン社のレーザー白内障手術システム LenSx を開院時より導入しております。LenSx は、これらの白内障手術ガイダンスシステムと連携し、手ではなくコンピューター制御されたレーザーを用いて切開と水晶体分割を行います。人の手はいつも全く同じことはできませんが、コンピューターは常にデザイン通りの切開を行うことができます。ガイダンスシステムとレーザー白内障手術システムの連携により、従来では不可能な精度の高い手術操作が実現します。



ORA™ with VerifEye Lynk™

白内障手術で用いる眼内レンズの性能を発揮するために最も重要なのは、最適なレンズ度数と乱視矯正です。どちらも術前の設定と誤差が生じると眼内レンズの性能が十分に発揮できないだけでなく、不快な見え方になることがあります。眼内レンズ度数は、複数の予測式から最適と予想される度数を選択しますが、あくまでも予測値を用いるために術後に誤差を生じる可能性は避けられません。本装置は、この問題を解決するための先端技術です。手術中に混濁した水晶体を除去した後に眼の状態を分析して、その測定値と世界中から集められた膨大なデータベースの結果を元に、最適な眼内レンズ度数を決めることができます。本装置によって、より正確な眼内レンズ度数（近視や乱視）の選択を行うことが可能になりました。

